

# お月見どろぼう実施状況調査 結果報告書

令和3年12月22日

四日市市立博物館

天文係 武中里穂

## 1 本調査の目的

令和4年1月から、四日市市立博物館の企画展「昭和の暮らし展」の見学を行う小学校3年生を対象とした、昭和の暮らし展用プラネタリウム学習投映番組「自然とともに生きた昭和の暮らし」を投映する。この番組の制作にあたり、四日市市の一部地域で実施されているお月見どろぼうの映像を使用する。この資料映像・画像の収集のため、お月見どろぼうの現在の認知、実施状況を調査した。

## 2 調査内容

### 2-1 概要

調査期間：令和3年6月15日（火）～8月31日（火）

調査方法：L o g oフォームを用いてアンケート調査を行った。館内掲示板、四日市市内各地区の市民センター、総合会館などにアンケートについて記載したポスターを掲示し、Facebook も用いて協力を呼び掛けた。

### 2-2 質問項目

(1) 年齢

(2) お月見どろぼうの認知

風習の内容を知っている・名前は聞いたことがある・名前も聞いたことがない  
上記から一つ選択。

(3) お月見どろぼうを知ったきっかけ

実際に参加して・祖父母・親・子ども・孫・親戚・知人・プラネタリウム・  
インターネット・書籍・新聞・テレビ・ラジオ・その他  
上記から一つ選択。その他の場合は自由記述有。

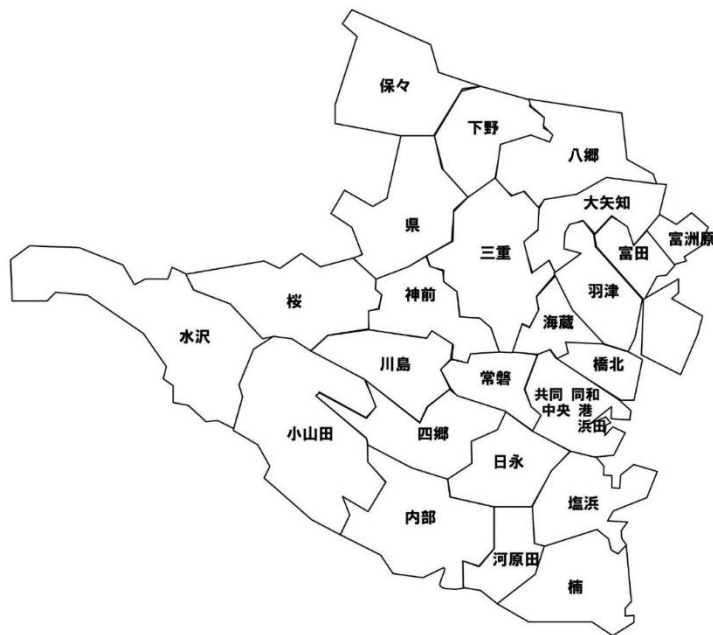
(4) お月見どろぼうの参加経験の有無

今回のアンケートでは、「お月見どろぼうに参加する」とは、お菓子（お供え物）

をもらいに行くことと、子どもたちのためにお菓子（お供え物）を用意することのどちらも意味することとした。

(5) 参加地域

四日市市の24の地区名もしくはその他から、最後にお月見どろぼうに参加した地域を一つ選択。その他は自由記述有。



図：四日市市地区割図

※選択肢では、共同・同和・中央・港・浜田を合わせて中部地区とした。

(6) お月見どろぼうに参加した年代

2011年～2020年・2001年～2010年・1991年～2000年・  
1981年～1990年・1971年～1980年・1970年代以前・不明  
上記から、最後にお月見どろぼうに参加した年代を一つ選択。

(7) その他実施地域

お月見どろぼうが実施されていることを知っている地域（参加の有無は問わない）を回答。

四日市市の24の地区名もしくはその他から選択（複数選択可）。その他は自由記述有。

(8) お月見どろぼうがはじまった時期や経緯について知っていること（自由記述）

(9) その他お月見どろぼうの内容や実施状況について知っていること（自由記述）

(10) 在住地域

(2) 認知の質問で「名前も聞いたことがない」を選択した方のみ質問。

四日市市の24の地区名もしくはその他から選択（複数選択可）。その他は自由記述有。

### 3 調査結果

回収数：50件

#### 3-1 概要

30～40代の子育て世代の回答が最も多く、28件集まった。2011～2020年では、内部地区、八郷地区、大矢知地区での実施報告が多く、現在も積極的に行われているようである。三重県内では四日市市周辺の北勢地域からの実施報告が多かった。

少子化のためか、実施している地域が減少しているようであり、嘆く声が多く聞かれた。同地区内でも実施方法に差があるため、映像資料を残すために、多くの場所で撮影をする必要があると感じられた。

#### 3-2 集計結果まとめ

##### (1) 回答者の年齢

10～20代	8
30～40代	28
50代以上	14

##### (2) お月見どろぼうの認知

風習の内容を知っている	43
名前は聞いたことがある	5
名前も聞いたことがない	2※

※三重県外1、愛知県1

##### (3) お月見どろぼうを知ったきっかけ

風習の内容を知っている、名前は聞いたことがあると答えた48名が対象

実際に参加して	30
知人	8
親	2
子ども	2
祖父母	1
書籍	2
インターネット	1
その他	2

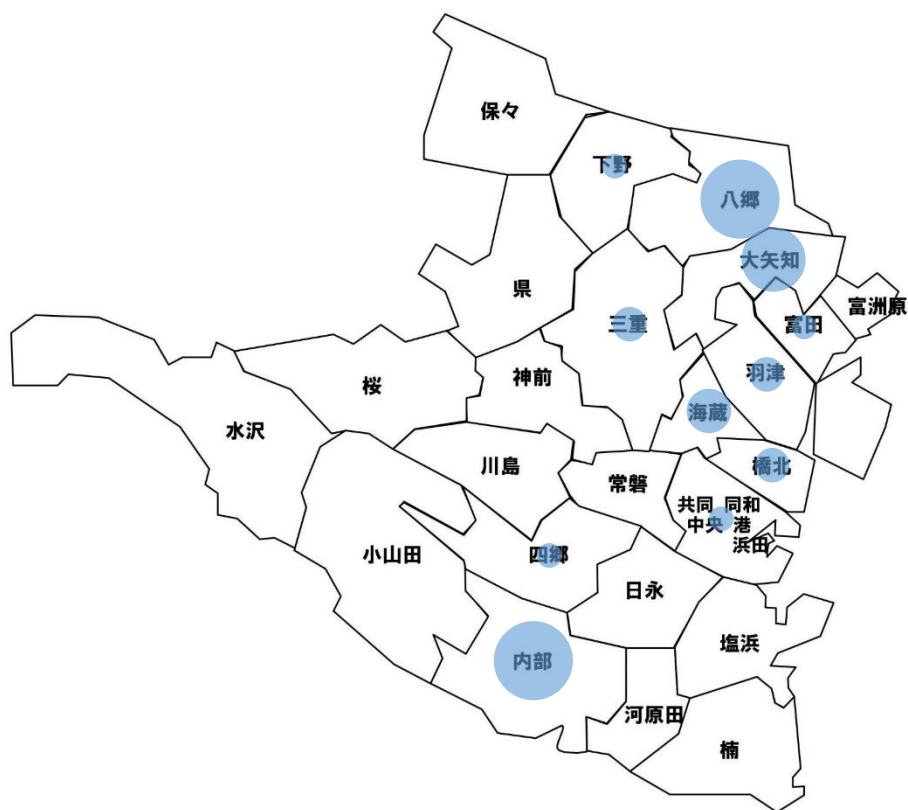
(4) 参加状況

参加したことがある	40
参加したことがない	10

(5) 実施地域（四日市市内・年代別）

参加地域と、その他実施地域を合わせて記載した。

1970年以前	大矢知、海蔵、橋北
1971年～1980年	四郷
1981年～1990年	大矢知、海蔵、八郷2
1991年～2000年	内部
2001年～2010年	内部、橋北
2011年～2020年	内部4、大矢知3、海蔵、下野、羽津2、三重2 八郷4
年代不明	中部、富田



図：四日市市内におけるお月見どろぼう実施件数（年代を問わず合算）

(6) 実施地域 (四日市市外・年代別)

参加地域と、その他実施地域を合わせて記載した。

1970年以前	
1971年～1980年	茨城県神栖市 (旧波崎町柳川地区)
1981年～1990年	
1991年～2000年	
2001年～2010年	三重県三重郡川越町、三重県桑名市日進地区、三重県鈴鹿市高岡台
2011年～2020年	三重県三重郡朝日町、三重県三重郡川越町、三重県桑名市、三重県桑名市桑部地区、三重県鈴鹿市西条、三重県東員町、大阪府岸和田市極楽寺町、京都府相楽郡精華町
年代不明	三重県鈴鹿市河曲、三重県桑名市伝馬町 (日進地区)、三重県桑名市久米地区、三重県三重郡菰野町竹成、愛知県名古屋市長区有松周辺、愛知県日進市、奈良県五條市大沢町

注：認知では50人中43人が風習の内容を知っている、参加経験の有無では50人中40人が参加経験ありとしているが、これはお月見どろぼうが広く認知されていることや多く実施されていることを示すものではない。アンケートの主な実施方法が、掲示した各施設を訪れた方に任意で回答をしていただくものであり、お月見どろぼうを知らない方や参加したことがない方の回答数が少なかったためである。

### 3-3 自由記述まとめ

参加経験ありの回答は、年齢、参加地域、参加した年代とともに記載した。ただし、参加地域に都道府県名が書いていないものは、四日市市内の地区名とする。

参加経験なしの回答のうち、風習の内容を知っているもしくは名前を聞いたことがある場合は、年代とお月見どろぼうを知ったきっかけを、お月見どろぼうの名前も聞いたことがない場合は、在住地域を記載した。

#### (1) 10～20代

##### 【参加経験あり】

・20代 八郷 2011年～2020年

お菓子の他にさといもが置いてある家があった。

・10代 三重県三重郡朝日町 2011年～2020年

父の代からあった(1980年代小学生)。家の前に置いてあるお菓子を小学生までの子供達がお月見くださいと叫びながら貰っていく。

・10代 三重県鈴鹿市西条 2011年～2020年

・20代 橋北 2001年～2010年

小学校、中学校公認である。小学生の頃はお月見どろぼうに関するプリントが配られた。中学生の頃は口頭で教員に「まさか行かないよね」と釘をさされた覚えがある。お菓子をもらいにいくのは町内の範囲で小学生までと、暗黙の了解があった。最近は児童数が減ったためか、行っている様子は見ない。

・20代 三重県鈴鹿市高岡台 2001年～2010年

私の住んでいる地区では、子供がいる家庭の玄関先にお菓子を用意していることが多い。時間は夕方暗くなるぐらいまで。お菓子を取りに回っているのは小学生ぐらいまで。

##### 【参加経験なし】

・20代 知人から聞いたことがある

(実施地域として)名古屋市緑区有松周辺 同じ緑区でも大高町にはない風習なので不思議でした。

・20代 親から聞いたことがある

・20代 祖父母から聞いたことがある

桑名市(伝馬町)の祖母もお月見どろぼうのためにお菓子を準備すると聞いたことがある。

・20代 聞いたことがない 三重県外在住

(2) 30～40代

【参加経験あり】

・30代 内部 2011年～2020年

2014年に内部地区に引っ越しして来て、地元の方からお月見どろぼうの風習を教えてください初めて知って参加した。それまで楠地区や常磐地区に住んでいたが、そういった風習をしているのを聞いたことも行っている様子もなかった。

・30代 内部 2011年～2020年

「お月見ちょうだい」と言いながら、子どもたちがやってきます。

・40代 内部 2011年～2020年

コロナ前には、おだんごを手作りして待っていてくれるおばあちゃんが居たり、折り紙で素敵な飾りを作ってくれていたりしました。子供のいる家では、駄菓子を地区の子供プラス20～30個用意しています。

・30代 大矢知 2011年～2020年

・40代 大矢知 2011年～2020年

大矢知町内でもある場所とない場所がある。さざらい地区はあったが東谷にはない。私は川島出身だが存在を知らなかった。

・40代 大矢知 2011年～2020年

自分が小学生の時に参加していて、今、中3の子供も小6まで参加していた。町の中でも細かく地区が区切られ、その地区しか行ってはいけない。時間が決められている。一言言ってく。今は、親が同伴。参加する子供が居る家しか行ってはいけない。

・40代 海蔵 2011年～2020年

地区の子供会の行事でやっていました。コロナで今は中止しています。自分が子どもの頃も地域でやっていた記憶がうっすら残っています。

・30代 下野 2011年～2020年

新しい団地ですが、団地が出来た当初からやっています。

・30代 羽津 2011年～2020年

・40代 羽津 2011年～2020年

・40代 三重 2011年～2020年

自分が子どもの頃からお月見泥棒は毎年の楽しみな行事の1つでした。お月見泥棒に来ました！と大きな声で挨拶をしながら近所中を歩いて周り、袋いっぱいのお菓子を両手に2つ抱えて持ち帰る。宝の山を手にしたみたいな喜びは今でも鮮明に覚えています。参加できるのは小学生までだったので中学生になったら今度は家で待機。泥棒たちが目を輝かせて来てくれるのを待ちお菓子を渡す側に。大人になり子3人の母になり住んでる地域は違えどこの行事を知っている周りの方々と子どもたちと一緒に子ども育成会の行事として参加しました。お菓子をを用意するのも楽しみ、それを抱えて帰ってくる子ども達の笑顔を観るのも楽しみでしたが末っ子ももう中学生…。参加は出来ませんがこの

子供が大人になった時まだまだこの行事が残っていることを願うばかりです。

・ **40代 三重 2011年～2020年**

・ **40代 八郷 2011年～2020年**

2002年に他県からきました。妻が1976年生まれの八郷地区出身です。八郷地区では妻が子供のころからお月見泥棒は行われていたようです。

・ **30代 八郷 2011年～2020年**

・ **40代 三重県三重郡川越町 2011年～2020年**

2008年引っ越してきた段階でお月見泥棒をしていた。ご近所さんも結構お菓子を出してくれていて、楽しい。川越の方がお菓子があるよ。と、こども情報をもらったりする。

・ **40代 三重県桑名市 2011年～2020年**

1970年代 自分が子どもの頃に参加していた。やり方が変わってきているが、現在も実施されている。自分が子どもの頃は、どの家にも（知らない人の家でも）声をかけていたが、現在は行ける範囲を絞ったり、小学生の子どもがいる家だけしか行けなかったりする地区もある。

・ **30代 三重県桑名市桑部地区 2011年～2020年**

子どもの数が減り、お菓子を置く人も高齢化で減り、行事自体が年々細くなってきている。

・ **40代 三重県東員町 2011年～2020年**

東員町（神田小学校校区）では私が物心ついたころ（1970年代ころ）からずっとあります。恐らくもっともっと前からあるんだと思います。始まった経緯はよくわかりませんが昔は「いもぼくり」という名称でした。お菓子もない時代で子供はお供え物の芋を目当てに来ていたとも聞いたことがあります。しかし、小学校低学年ころ（80年代後半）に子供たちが自転車に乗って遠征にいたりし夜間事故を起こした、ということがあり（真偽は定かではないですが…）私の記憶では学校からいもぼくりに参加してはいけないという話があった記憶があります。それから今から15年ほど前に、いつの間にかお月見どろぼうというカッコいい名前でもた始まっていると実家の母親から聞きました。再度始まった経緯はわかりません。

・ **40代 大阪府岸和田市極楽寺町 2011年～2020年**

岸和田の場合は、明治生まれの方も、子ども時代に参加したことがあると、おっしゃっています。大阪市科学館の機関紙にも、掲載されたことがあります。だんごつくときは、つかせて一という。戦後はだんごだけではなく、ポテトチップスや駄菓子もプレゼントする。だんごつき参加しない家は、今年はしめんと、張り紙をする。岸和田の場合。



・ 40代 京都府相楽郡精華町 2011年～2020年

小さい子供と関わる機会が減った父と母はこの一年に一回のお月見どろぼうの日をとても楽しみにしていて、近くになると大量に小さなお菓子を買い込んでいます。夜危なくないように電気を照らしたり、塾帰りの子にもあたるようにと気を配ったりと準備するほうもこんなに楽しんでいる人もいるのだと気付きました。現在私が住んでいる羽津地区でも実施しているところはあるが、羽津小学校校区では実施しているが羽津北小学校校区ではされていない。自分の子供にもお月見泥棒を体験させてあげたかったが、自宅にお菓子を準備もしていないのに校区外に赴くは申し訳ない気がして、実家がある東員町で参加しました。昭和の時代より子供たちが行儀がよくなったと思います。昔はお菓子が出ていないお宅にわざわざ「くださーい」とか声を掛けたりしていた。今は一人一個は絶対守るし、「ありがとうございます」もしっかり言っていく。準備をするほうはある程度大変なこともありますがとてもいい風習です。長く続いてほしいです。

・ 40代 三重県桑名市日進地区 2001年～2010年

結婚してから主人の地域でお月見どろぼうを知りました。同じ桑名市ですが、最初は何のことやらで困惑してしまいましたが…、私の方は地藏盆で子どもたちが集まるのはしてましたが、主人は地藏盆を知りませんでした。同じ桑名市なのに不思議ですね。

中秋の名月に子どもたちが8時ぐらい迄、グループで行動しています。年々少なくなっている気もしますが。駄菓子を貰って笑顔で帰る姿は、地藏盆でお供え物の駄菓子を笑顔で家に持って帰った自分の子供の頃を思い出します。

・ 30代 内部 1991年～2000年

近所のお宅からお菓子をもらい歩いた。軒先に置いてある場合や、実際その家の人から手渡しでもらった。キリスト教徒だった家には不参加の張り紙が貼ってあった。

・ 40代 大矢知 1981年～1990年

私が小学生のとき、1981年から1986年に、実際に参加しておりました。毎年、近所のお家にお菓子をもらいに行くのがたのしみでした。

・ 40代 海蔵 1981年～1990年

子供達が、友達同士や兄弟で「お月見ちょうだい」だったと思いますが、玄関で声を掛けてくれて、お菓子を持っていってもらっていた記憶があります。

・ 40代 八郷 1981年～1990年

【参加経験なし】

・ 30代 知人から聞いたことがある

・ 40代 知人から聞いたことがある

菰野町の竹成とウルダの友人から大人になってから聞いた。生桑／尾平地区ではしていない。

・ 40代 聞いたことがない 愛知県在住

(3) 50代以上

【参加経験あり】

・50代 内部 2011年～2020年

以前は各戸に行き、玄関も開けて、お月見どろぼうですとやってたのですが、最近では取り決めとして、お供えしてあるのをもらっていくようになりましたね。元気な声がなくてさみしいですが、これもいたしかないのかも

・60代 八郷 2011年～2020年

中部地区出身の義母（1936年生まれ）が子供の頃、十五夜に近所の家の前に置かれた里芋の煮物やお団子をもって歩いたと言っていました。同じ所で育った夫（1958年生まれ）が子供時代にはその風習はなかったそうです。

1996年頃、知人から川越町ではお月見どろぼうの風習があり、時期が近づくとスーパーのお菓子売り場に「お月見どろぼう用にどうぞ！」とのキャッチコピー付きのお菓子の袋が売られていると聞きました。

私は2015年に八郷地区で暮らしはじめましたが、ここは子供たちがお菓子をもって歩く風習があります。我が家には小さい子はおりませんがお供えを用意する側として翌年から参加しています。

・60代 内部 2001年～2010年

四十年程前采女町で飲食店を始めましたが、満月の夜突然近所の子供達が大勢やって来て「おっちゃん お菓子ちょうだい」と言われてびっくり。

家内（65歳 采女町出身）が子供の頃には盛んにやっていたそうです。私（66歳 富田出身）は全く知りませんでした。

・60代 三重県三重郡川越町 2001年～2010年

・60代 八郷 1981年～1990年

下野地区から八郷地区に引っ越して来て、その地区でお月見泥棒をやっていた。子供が小一の時に中止になった。お菓子のやり取りでトラブルがあったように聞いている。お菓子を準備しておいて、子供たちが「お月見泥棒だぞ」とか「お月見泥棒にやってきた」などと言いやってきたら、お菓子をあげる。もちろん全部の家がお菓子を準備しているわけでは無いし、行事を知らない家庭もあったようです。育成会が主で自治会の取り組みではなかったように思います。

・50代 四郷 1971年～1980年

詳しくは知らない。庭先の御供物を勝手に持って行く。又は玄関先で貰う。

・50代 茨城県神栖市（旧波崎町柳川地区） 1971年～1980年

現在は滋賀県に住んでいるのですが、私の育った茨城県神栖市では、団子泥棒という名前でした。15夜の満月の夜に、縁側などにお供えしてある団子などを文字通り泥棒しました。家人の気配がする中、ドキドキしながら盗んだものです。その晩だけは親もうるさいことを言わず、夜に出かけることを許していました。現在は学校の指導なのか、

インターホンを鳴らして下さいと来ると母が言っていました。四日市市でも同じ風習があったことにビックリしました。育った地域では兄達も子供の時にしているので、50年前にはすでに有りました。結果がとても楽しみです。

・ 60代 大矢知 1970年以前

私の子供の頃…50年以上前の事になりますが、その時だけは、夜子供同士で出歩ける事が許される時でした。地域のお家では子供達のためにお菓子やお餅を用意してくださって（大人は大変かも）楽しい行事だと記憶しています。

・ 70代 海蔵 1970年以前

・ 70代 橋北 1970年以前

【参加経験なし】

・ 50代 知人から聞いたことがある

・ 50代 書籍で読んだことがある

・ 50代 知人から聞いたことがある

#### 4 番組のためのお月見どろぼうの撮影について

調査の内容を踏まえて、大矢知地区にてお月見どろぼうを実施している様子を撮影した。この撮影は、令和3年7月25日（日）に、大矢知地区こども育成者連絡協議会の協力のもと実施した。これは、当時新型コロナウイルス感染症が拡大することが予想され、中秋の名月当日にはお月見どろぼうを実施しない可能性があったことから、事前に実施の様子を再現してもらったものである。

大矢知地区内でも実施方法は異なるようで、撮影した地域では、各家庭に声はかけず静かにお菓子を取っていくこと、お菓子は一人一つずつであること等のルールがあった。

撮影した映像は令和4年1月から実施する昭和のくらし展用プラネタリウム学習投映番組「自然とともに生きた昭和のくらし」で紹介する。今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため当日の撮影は出来なかったが、次年度以降、他地域での映像も撮影し、実施方法の違い等を子どもたちに伝えていきたい。